

肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究

研究分担者：朝井 章 大阪医科薬科大学病院 肝疾患センター

研究要旨：本年度から、肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究に参加し、非専門医陽性者対策に参加した。非専門陽性者対策においては、千葉県におけるデンタルショーに参加し、どのように非専門医である歯科医師及び一般市民に対して情報提供を行うのかという実際のアンケート法を用いた方法について経験を積んだ。それらで得られた経験から、大阪府においても同様に非専門医陽性者対策を行うべく、歯科医師に対して情報提供できる体制の構築し始めている。現在、その後1月に行われた大阪府肝疾患診療拠点病院連絡協議会にて、他の4つの拠点病院と大阪府から非専門医である歯科医師に対して情報提供を行うことについて了承を得ており、その具体策について検討している。

A. 研究目的

ウイルス性肝炎に対する情報提供が、検診の受検、検査陽性であった際の専門医療機関受診、治療が必要であった際の受療に大きく関わることが知られている。しかし、その一方、本来であれば患者に情報提供を行う側の医療従事者がそれらのウイルス性肝炎に関する専門知識が完全ではないことも判明している。その理由は、医療が細分化され各領域にてスピーディーに進歩を続けている現在において、すべての領域におけるProfessionalは存在しえないからである。肝疾患専門医が、非専門医療従事者に、どのような情報をどのような方法を用いて提供することが、その先に存在する患者受検・受診・受療を効率的に促進させるのかについて未だ明らかではない。

今回は、非専門医療従事者を歯科医及び歯科助手といった歯科領域の医療従事者を対象として、どのような情報提供が効率的か検討を行なった。

B. 研究方法

第21回千葉県歯科医学大会に会場された非専門医である歯科医師ならび歯科助手、一般市民に対して、ウイルス性肝炎の疫学、症状、治療等に関する情報提供をポスター掲示により行う。その後、アンケートにて情報提供の効果を確認するとともに、更なる疑問に対して返答することにより、知識の獲得を促

進させる。最終的に、知識が100%獲得できたことを持って完了とする。

C. 研究結果

多くの歯科医師や歯科助手、一般市民は、当初ウイルス性肝炎に対する知識をほとんど持ち得ていなかったが、情報提供後はそれらの知識を獲得していた。以上のことから、このポスター、アンケートを用いた啓発活動は効果的であると考えられる。

D. 考察

これらの活動は行ってみると、Webではなく、対面で行っていることが非常に効果的であることが実感できた。その理由として、さまざまな人に同じ情報を提供しても、各自の疑問点や理解度には必ず差が存在する。それら疑問や理解度の違いを考慮した上で、本当に必要な知識を提供するには、やはり個人に対するテーラーメイドな対応が大切である。いわゆる個人の顔色や駆け引きのような会話の中で、疑問や理解度を促す必要があり、それらの行為はWebで行うことは困難であり、やはり対面で行うことが重要であると判断した。

E. 結論

多くの歯科医師や歯科助手、一般市民は、当初ウイルス性肝炎に対する知識をほとんど持ち得ていなかったが、情報提供後はそれらの知識を獲得していた。以上のことから、このポスター、アンケートを用いた啓発活動は効果的であると考えられる。

これらの経験から、今後大阪府でも同様の啓発活動を展開したいと現在検討を行なっている。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

第21回千葉県歯科医学大会に参加し、非専門医である歯科医師ならび歯科助手、一般市民に対して、ウイルス性肝炎の疫学、症状、治療等に関する情報提供をポスター掲示により行った。更に、それらの情報が理解できているのかに関して、アンケートを用いて確認を行なった。

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

なし

3. その他

啓発活動

1. 朝井 章 第21回千葉県歯科医学大会
2024年11月10日 千葉県歯科医師会主催

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし